

アステップ

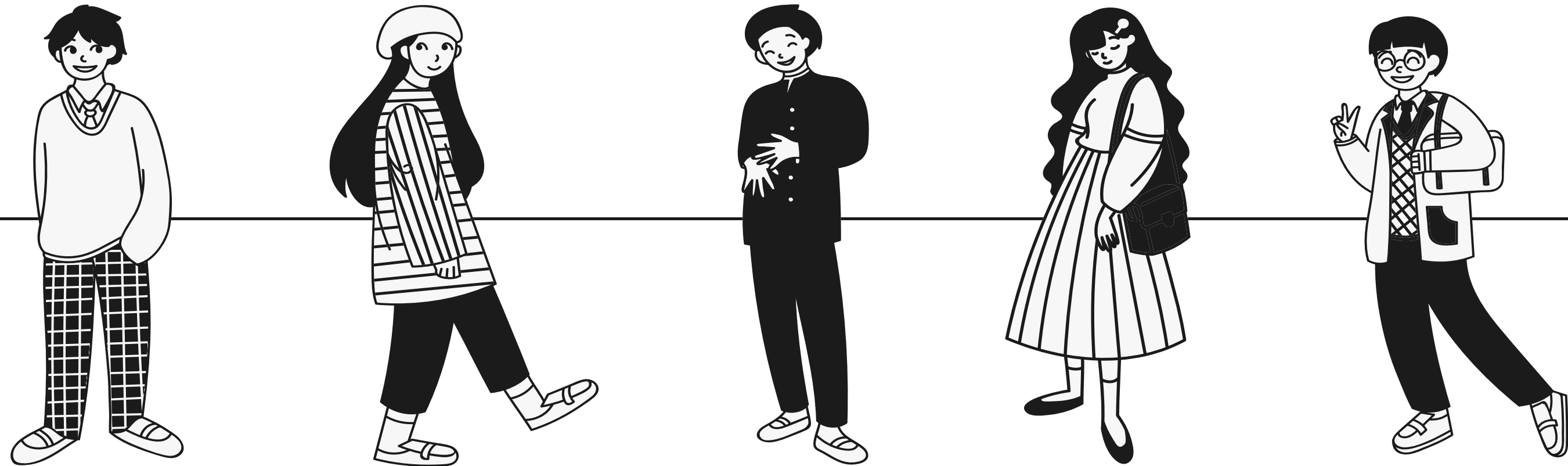
放課後等デイサービスASTEP

ASTEP長岡京

ASTEP LABO (2025.4月～)

～ Assistance in Social Independence ～

私たちのミッションは、お子さまのキャリア形成を促進し”より良く生きる、より強く生きる”ための一助となることです。





アステップ

“ASTEPとは？”

After School Time Education Program

頭文字をとってASTEP（アステップ）といいます！

支援の必要性があるお子さん（小学1年生～高校3年生）
を対象として放課後の時間を利用して療育を行う施設です。

ASTEPでは、一人ひとりの生活スキルを育むサポートを
行いながら、社会とのつながりを大切にする多彩な交流の
場を提供しております。



🎓 営業時間（サービス提供時間）

月～金曜日：11：00～19：00（13：00～17：30）

土・休校日：9：00～17：00（10：00～16：00）

※ 平日は17：30 土・休校日は16：00から順次お送り

🎓 サービス対象者

知的障がい・精神障がい・身体障がい・発達障がいの
小学1年生～高校3年生までの児童

🎓 ご利用定員・地域・料金

定員：10名/日（1日最大15名まで）

地域：向日市・長岡京市・乙訓郡大山崎町
伏見区・西京区・南区の一部

料金：各自治体が定めた料金 + おやつ代等（100円/日）





“社会自立へ向けた 成長の一助となる”

お子さん一人ひとりが「より良く、より強く生きる」ことを目指し、日々の支援を行っています。

ASTEPは、デイサービスという枠を超えて、異なる年齢や特性を持つお子さんが集まり、一緒に学び合い、助け合う「小さな社会」としての役割も担っています。

その中で、自分を知り（得意・不得意）誰かを支えたり、時には支えられたりする経験を重ね、社会性や自信を育んでいきます。



“個別性の尊重”



興味を丁寧に見極め、できることとできないことを明らかにした上で、目標を一緒に考えます。
無理のない範囲で取り組みを進めながら、小さな成功体験を重ねることで、自信を育めるようサポートしています。何よりも**楽しみながら成長できる環境**を提供することを何よりも大切にしています。



“集団療育”



様々なお子さんたちが集まるASTEPでは、**本質的な社会性が学べる環境**を提供しています。
幅の広い活動（プログラム数は2500種類以上）を行う中で自己表現や協調性を発揮する機会を設けます。集団が苦手なお子さんも個別的にフォローしながら、少しずつ集団に目を向けていく支援を行います。





“個別療育”



月～金曜日

通所のルーティンが確立した段階で、**登所時**に個別療育を行っています。

自立して取り組める課題や1対1での取り組みなど、親御さんと連携しながら課題を設定し、ご利用毎に行っていきます。



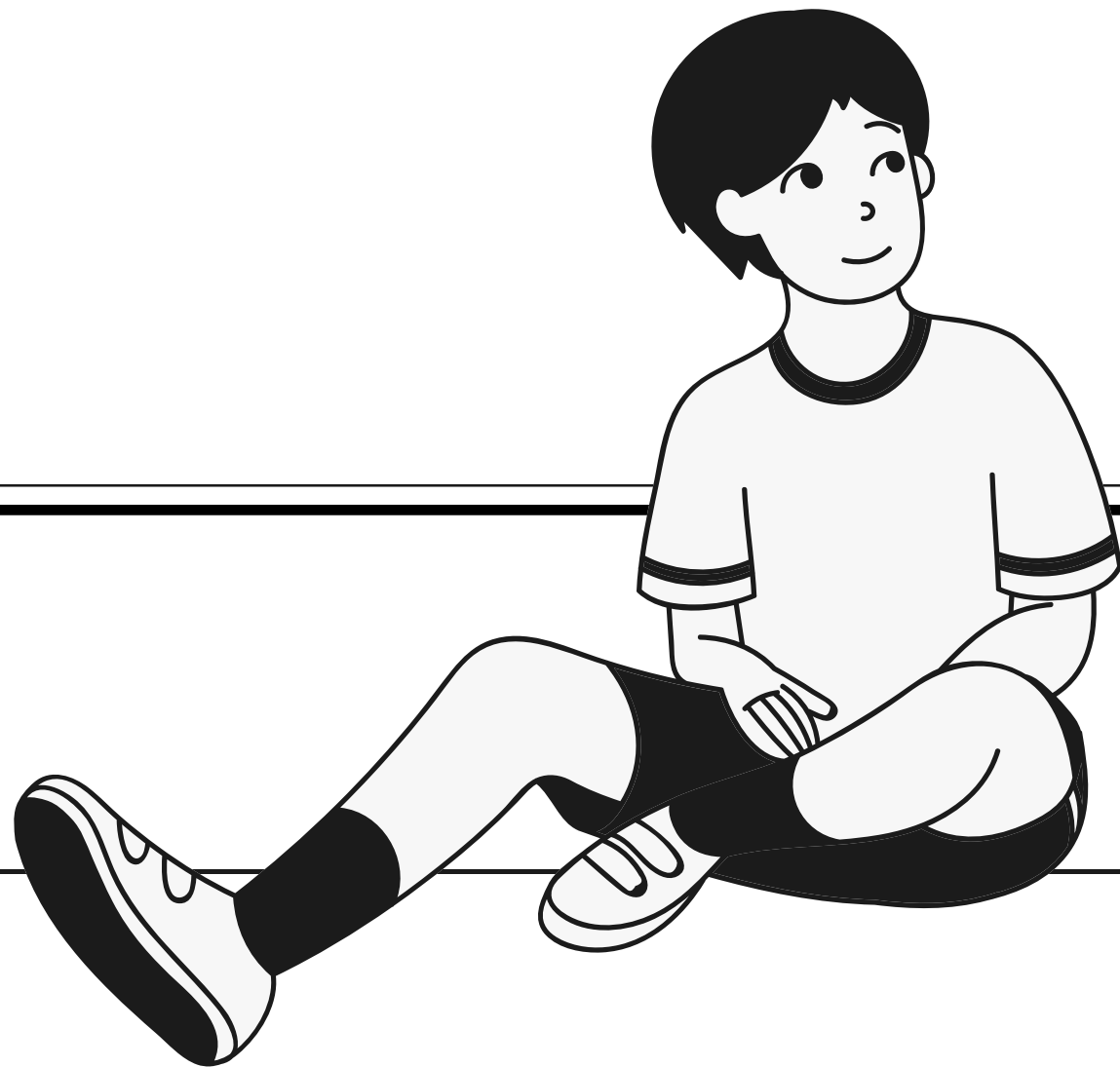
隔週の土曜日

ニーズと目標に合わせてカスタマイズした**専門的な個別療育（約1時間）**を行います。

個別療育で取り組んだ課題を振り返り、集団療育の中で自然と活かせるようサポートしています。社会自立に向けた基盤を一緒に着実に築いていきます。



“学習支援”



学習支援の特徴

通所のルーティンが確立した段階で、**登所時**に個別療育と並行して学習支援を行っています。

① 支援内容は付箋紙で保護者に報告

どんな姿勢や態度だったか？ペースやかかった時間は？困りが合った時の支援は？など…

ノートやプリントに付箋紙を貼って報告！

お家で確認してもらい、そのまま学校に持っていかれるご家庭も多いです◎

② 長期休暇時の学習支援

学習に向かう時間を設けています（多くは登所時）範囲を決めて自分との約束にチャレンジ！



“伝えてこそ療育”

🏆 療育日誌（連絡帳）

【ありのままを包み隠さず（活字）伝える！】

お子さんの“今”を知る鍵、それが療育日誌です。
私たちが行った支援の内容とともに、日々の成長や挑戦を具体的に記録し、ご家庭でのサポートにも役立てていただけます。お子さんの小さな変化や頑張りや、療育日誌を通して一緒に見つけましょう！



療育日誌（例）



療育日誌の構成

- ① 学習支援
- ② 個別課題（個別療育）
- ③ 本日の療育活動と目的、内容
- ④～⑥ 支援内容とご様子等
- ④ 【本日の成果】 目的に対してお子さんの様子はどうか？ **事実**をまずお伝えします。
- ⑤ 【今後の焦点】 関わりの中で**今後課題となってくることを**お伝えするとともに**対策**を伝えます。
- ⑥ 【さいごに】 支援員からのひとこと、ご家庭でのフォロー、親御さんへのお願い等

25	金	① ○ 付箋あり	② ○ ビジョントレ (記号 数字)	<p>③ 公園遊び:ケイドロ (目的:リフレッシュ・全身運動)</p> <p>本日は新田公園にて公園遊びを行いました☆</p> <p>序盤は自由遊び(10分程度) 遊具を使用して遊ぶ中で、周知したルールへの意識度、順番を待つ場面を見ていくとともに、ケイドロでは全身運動でリフレッシュをすることを目的に活動に取り組んでいきました♪</p> <p>支援員は、遊具の使い方に不安がある場合には正しい方法を伝えたり、友達との関わり(特に順番やルール意識)において、必要な場面で助言、援助を行っていきました。</p> <p>また、適宜、水分補給の時間を設け、他に遊んでいる人たちへの意識、安全ルールを守るよう言葉を掛けながら、周囲との距離に配慮して活動を進めました♪</p> <p>最後には、体調不良や怪我の有無等の確認をしております。</p>
----	---	----------------	-----------------------------	--

公園に着くなり、すぐにみんなで決めていた【ケイドロ】を行っていきました！
※ ルールはご存じだと思いますので割愛します。
●●●くんが発信したルールは…

- ① (エリア外に行かない、ではなく) エリア内を逃げること
- ② (途中離脱しない、ではなく) 最後まであきらめずに逃げること

この2つを否定的な言葉ではなく、肯定的な言葉でお伝えしています！
また、タイムアップ時に捕まっていた人は、だいすけさんからのご褒美ドリル(こちょこちょ)をするという特設ルールも伝えてドキドキ感をアップしています◎
全部で5戦行いました！(私もハードでした…！)

【本日の成果】 ④
ケイドロをしている間、●●●くんは最初は線から出てしまう場面がありましたが、都度の注意喚起をすると、意識して範囲の中で逃げようとする姿がありました！
仲間意識も見られ、捕まっている友達を何とか助けようと、あの手この手で大人の目をかいくぐって、見事仲間を助けるという場面が何度もありました★私が迫ると、もうだめだ、と諦めてしまう場面もありましたが「諦めない！最後まで逃げる！」と、言葉で鼓舞すると、その声に応えてくれて一生懸命に最後まで走り抜いてくれましたよ！
1戦終わるごとのお茶休憩を挟みましたが、すぐに水分補給を終えると、早くしたい！と言わんばかりにすぐに逃げる体制に入っていました！

【今後の焦点】 ⑤
ルールの穴を突く(捕まったら檻の中に入るが、入る途中でタッチしたら逃げられる)場面が何度かあり、何度かプレーが止まることがありました。
複雑化すると理解が難しい友達もいるため主張は受け入れられず…
また、活動外、終わりの会で私が前でルールの大切さをわかる言葉で簡単に伝えている際の態度ですが、否定的な言葉(ルールとか知らんし、はいはい知りません～)というような言葉があり、その言葉に感化された友達が同じように言う、という事態がありました。このような様子についてはこれまでも何度かあり、支援員間では【積極的スルー】の対応をしておりましたが、自覚なく言っているような様子も見られるため今後の対応を考えていきたいと思ひます。

【さいごに】 ⑥
私は「子どもは公園で育つ」というちょっとした想いがあり、友達とともに外で活発に遊ぶことで、その時々で繰り広げられるコミュニケーション(トラブルも含めて)の繰り返して、心身ともに強くなっていくものと、私の経験からも身に染みて思うところです。
良い季節になりましたので、秋～春にかけて数多く外に出る機会を設けて、寒さに負けず、心身を刺激する機会を設けていきたいと思ひますので、親御さんにおかれましても、事後のケア等、ご協力を宜しくお願ひしたいと思ひます。





“伝えてこそ療育”

Googleフォトアルバム

【ありのままを包み隠さず（画像）で伝える！】

ご利用毎、アルバムを配信しています！

療育日誌の内容（字だけではイメージしづらい）を視覚的に見ていただけます。ご利用後は、お子さんとともに成果を振り返るツールとして活用いただいています。

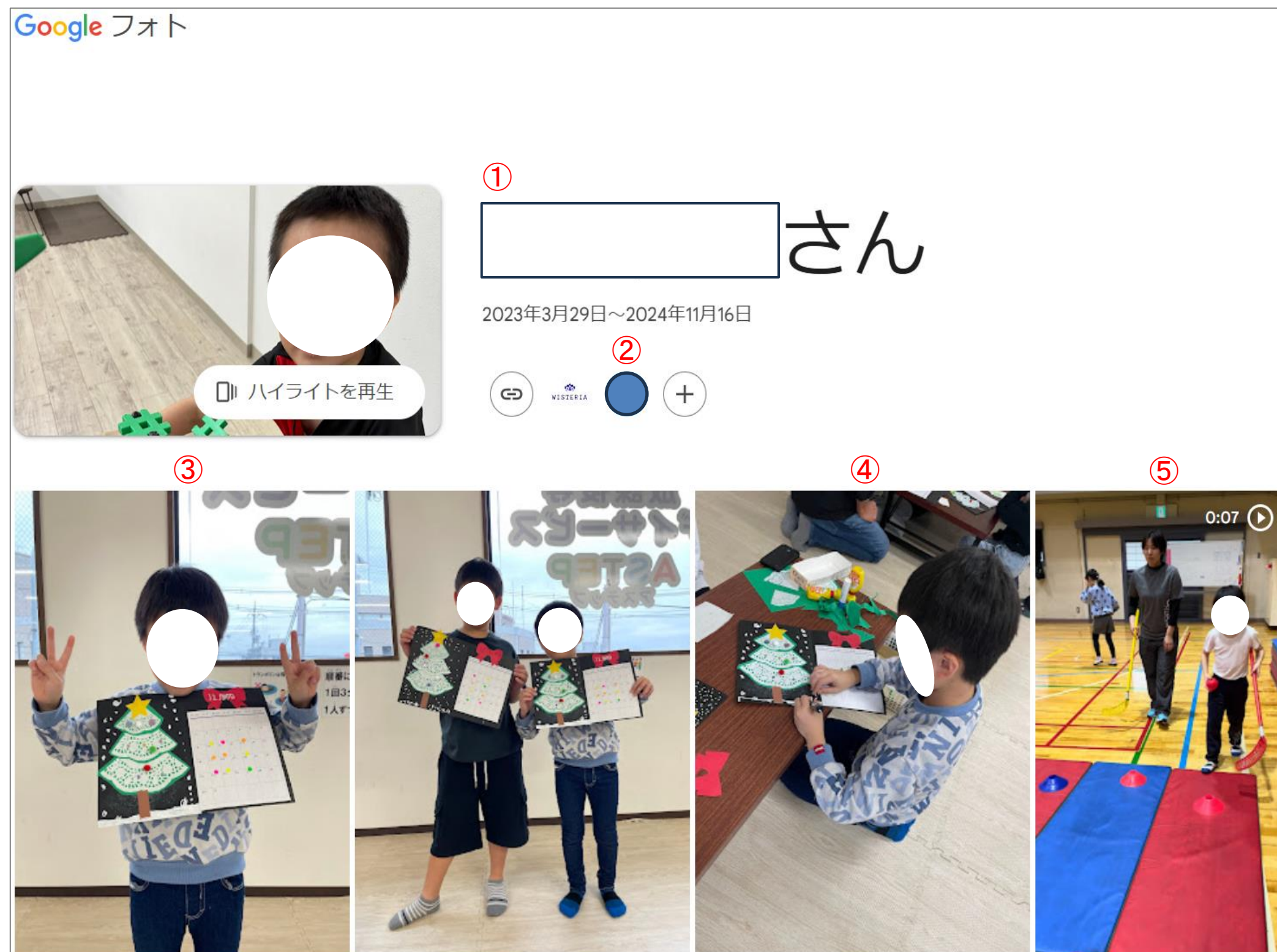
アルバム（例）

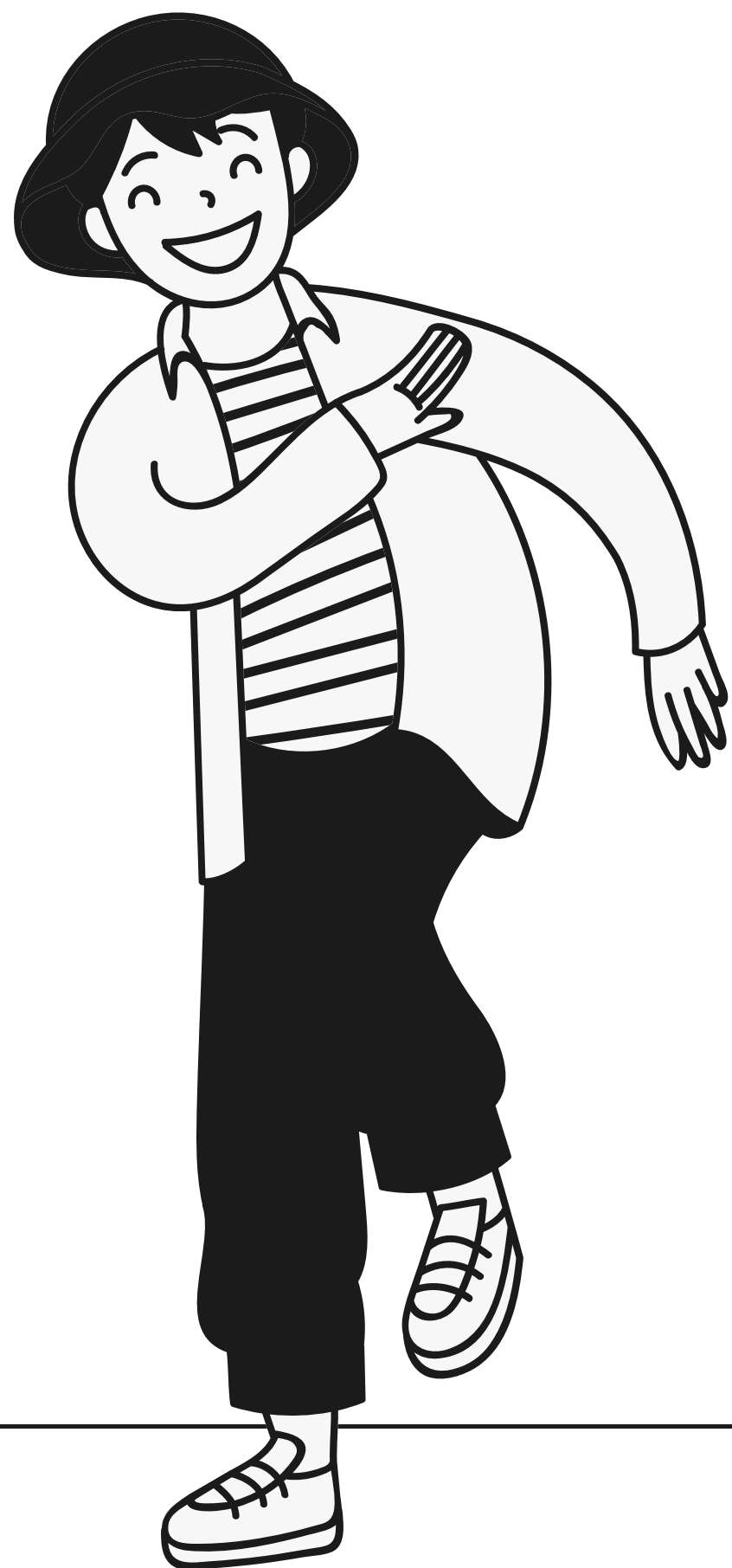
🏆 アルバムの構成

- ① お子さんのお名前
- ② アカウント（Googleアカウントが必要です）

- ③ 成果のお写真
- ④ 活動のご様子
- ⑤ 必要に応じて動画も撮影しています。

※ お子さんとの関わりを優先しているため、活動によってお撮りできない場合があります。





“考えてこそ療育”

🏆 活動（プログラム）計画

【お子さん（現在）を考えに考え抜く！】

曜日ごとの特性、領域のバランスを考えて、支援員それぞれがプログラムを計画しています。

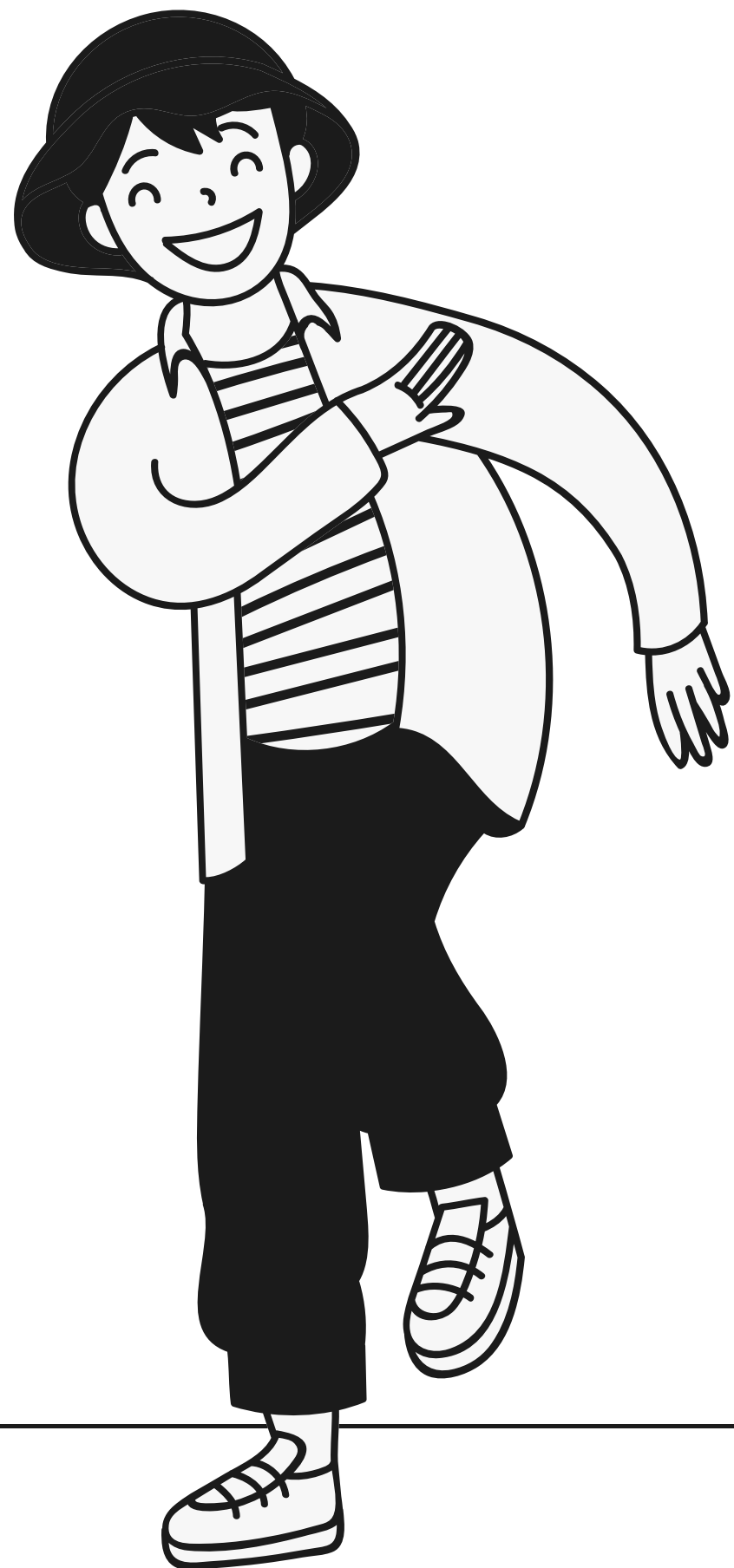
個別支援の必要性や、活動内での役割等、利用するお子さんそれぞれに目的と目標を持って作成します。

活動計画（例）

- ① 目的がなければ目標を掲げることはできません。
- ② アプローチする領域の設定
- ③ 利用するお子さんの特性から領域ごとの具体的な支援の確立
- ④ 一目で見て、誰にでもイメージできるように記載しています。
- ⑤ A～C（必要に応じてD）を設定
お子さんごとに落とし込む。
- ⑥ 特に導入に工夫を入れています。
ここがダメだと活動が失敗する。

活動プログラム・計画表（R6年度）		ASTEP長岡京 計画作成者：	26歳女性 児童指導員
日時	10月	18日	(金)
① 活動名(プログラム)	室内ゲーム:オセロリレー (目的:チームワーク / 正確な認知を養う)		
② 領域	ねらい	③ 具体的な支援	
① (イ)運動・感覚	⑦姿勢と運動・動作の基本的技能	児童が駒を正確に並べられるよう、視覚的な手掛かり(色の確認や順序の説明)を事前に行う。また、活動中に気持ちが高まりすぎないように、クールダウンの言葉かけやペースを調整するための合図を入れる。	
② (ウ)認知・行動	⑧認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	駒色の認識、チームメイトと協力しながら駒を正確に並べること。駒の順番や色を確認し、速さだけでなく正確さ、丁寧に意識向けできるよう、プレー中にも模範を示す。	
④ 活動の概要	オセロリレーは、運動と認知の要素を組み合わせた活動です。児童は2人1組のチームを組み、指定された色のオセロ駒を、テーブルから5m先のオセロ盤に正確に並べる競技を行います。駒を置いた後は再び駒の場所に戻り、次の駒を持って再度盤に向かう。(繰り返し運動)活動には、シャトルランのような体力と、色や順序を間違えないようにする認知力が必要であり、半分以上の駒を正確に並べることができるか?アセスメントを行うとともに、目標達成できるよう支援を行う。チームで協力し、スピードと正確さのバランスを図りながら、児童の動きを観察する。		
⑤ 活動の目標・最終評価 (Aから目標:高)	A	● 視覚的手がかりを活用して、自発的かつ正確に駒を配置し、スピードと正確さを両立させながら全工程を完了できる。活動全体を自発的に進め、他者の手助けなしで駒の順序や色を正確に判断。一定のスピードを維持しつつ、最終的に駒を正しい順序で並べられる。	
	B	● 他者とコミュニケーションを取りながら、駒の順序や色を正確に判断し、協力して効率的に作業を進めることができる。友達と声を掛け合いながら、駒の順序や色を確認。正確さを維持しつつ、スムーズな流れを保ち、協力して目標を達成することができる。	
	C	● 支援員の指示を受けて駒を正しい順序で配置し、動作を確実に実行できる。支援員のサポートを受けながら、駒の色と順序を1つずつ確認。間違いなく正確に駒を配置する基本的な動作を確実に実行することを目指す。	
活動の流れ【時間】		活動の内容	関わりの着意・安全管理等
導入	⑥ 16:15	活動の流れを視覚支援やデモンストレーションを使って説明し、児童にどのようにオセロ駒を運ぶかを実演する。児童に自チームの駒の色を確認させ、色や順序に注意を促す。具体的なゲームの進め方をわかりやすく伝える。	・各チームのペースや状況に応じて、必要に応じた声かけを行う。
展開	16:25	チームごとにオセロリレーを開始する。各チームが順番に駒を運び、指定された盤に正確に置くよう促す。支援者は必要に応じて声かけを行い、スピードと正確さのバランスを保つよう調整する。ペースが早すぎたりミスが多くならないよう、タイミングを見てチームの進行を確認する。盤の位置には支援員を配置して、丁寧に置くよう注意喚起するとともに、位置規制(手直し)を行う。	・活動中に児童が疲れたり、集中力が切れたりしないよう、適宜休憩を取り入れる。 ・床が滑らないように安全確認を行い、転倒防止のための準備をする。(レーンを表示し、中心にはコーンを設置:衝突防止)
まとめ	16:50	活動が終了した後、振り返りとして、各チームがどのように協力できたか、また正確に駒を並べられたかを話し合う。成功した点や次回の課題を話し合い、活動全体の感想を共有する。	活動を円滑に進められるよう、チームごとに明確なルール説明と視覚支援を用意する。





“考えてこそ療育”

個別支援計画

【お子さん（将来）を考えた考え抜く！】

ご利用開始にともない、個別支援計画をご提示します。

この計画はいわゆる“支援のロードマップ”です。

半年後、1年後のお子さんが、こんな姿になっている！と

ドキドキワクワクするような内容をご提示します◎



個別支援計画（例）

放課後等デイサービスASTEP		個別支援計画書			作成日: 2024年 10月 27日		
利用者氏名(児童氏名)	●● ●●	性別	男	計画作成者	児童発達支援管理責任者 水口 幸代	年齢	●歳
計画開始日	2024年 11月 1日	計画終了日		2025年 4月 30日			
① 家族及び本人の意向等(望む生活)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをことばで表現してほしい。 ・個性を尊重して自分らしさを保ちながら社会で生きていく力をつけてほしい。 						
② 総合的な支援の方針	<p>総合的な支援方針として、情緒の安定と自己コントロールの向上を目指し、痲痺やいらだちが生じた際に深呼吸やカウントなどで気持ちを落ち着ける方法を身につけるサポートを行います。また、家庭や学校、アステップでの出来事を自ら話せるよう促し、ノートや絵を使って表現する機会を設け、自己表現力を育てていきます。ゲームの使用時間を守る習慣も支援し、他の楽しみを見つけられるよう、新しい活動を提案します。さらに、友だちとの関わりでは、トラブル時に「ごめんね」と伝えることで相手が安心することを理解し、相手の気持ちを考える練習を取り入れます。学習面では、授業中の集中力を高め、発言の適切なタイミングを学べるよう支援するとともに、服薬の有無での行動の違いを家庭と共有し、安定した学習環境を整えます。家庭・学校・アステップの連携のもと、安心して自己管理や自己表現に取り組める環境を目指します。</p>						
■ 到達目標							
③ 長期目標(目安として1年以内の期間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 同年代の子どもに自分から話しかける、または他の子どもと短い会話(例:「今日は何をしたの?」など)を行い、自然なコミュニケーションができるようになる。 ● 支援者や友達が話しているときに最後まで聞くことを意識し、途中で発言を挟まずに待てるようになる。また、話を聞き終えたあとに「わかった」と応答するなど、聞き終わったことを示す姿勢が取れるようになる。 ● 週に1回、ゲーム以外の活動に集中して取り組む(例:外遊び、絵本を読む、パズルに取り組むなど)ことで、興味の幅を広げ、自分に合った楽しみを見つけられるようになる。 					支援の標準的な提供時間等(曜日・頻度・時間)	
④ 短期目標(目安として半年以内の期間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分から同年代の子どもに挨拶をしたり感謝の言葉を伝える他、簡単な質問(例:「今日何して遊ぶ?」など)のやり取りが見られるようになる。 ● 支援者や友達が話しているときに途中で話さずに待つ回数を増やし、話が終わった後に「わかった」と応答できるようになる。 ● 短い時間からゲーム以外の活動(例:絵本、工作、外遊びなど)に取り組み、その活動についての成果や反省を言語化できるようになる。 					週2回、平日は1.5～3時間、土・長期休暇時は5時間を上限として支援を行う。細部については個別支援計画(別紙)に示す。	

- ① ご家族の意向や願いが、計画作成に最も重要な部分です。遠慮なく胸の内をお話ください◎
- ② ご家庭の方針や考え方に沿って、ASTEPでの過ごしの中での支援方針をご提案します！
- ③ 1年後はこんなことができている！と心躍る内容をご提示できるよう支援員全員で考え抜きます★
- ④ 1年後の姿から逆算して、途中に置く目標です！スモールステップの積み重ねで、実現させていきます♪



個別支援計画（例）

② 【成長した姿】になれるように私たちが行う 具体的支援について（数・回数・時間等）

③

項目	① 支援目標(具体的な到達目標)	② 支援内容(具体的内容・支援の提供上のポイント・5領域との関連性等)	ガイドライン項目	達成時期	担当者 提供機関	留意事項 (本人の役割含む)
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用毎、支援者や友だちに対して、感謝の言葉(ありがとう)を自分から言えるようになる。 ※ ネガティブ→ポジティブな言葉を増やしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 感謝を伝える状況の認識 1日の活動中に2回以上、支援者からの小さなサポート(教材を渡す、片付けを手伝うなど)を提供し、感謝の気持ちを感じる機会を増やします。 ● 感謝の言葉を発する練習 支援を提供した後に「何か言いたいことがあるかな?」と軽く促し、1日1回は「ありがとう」が出るように支援します。本人が「ありがとう」を言えた場合、その場で「今のありがとう、とても良かったね」とフィードバックを行い、次も頑張ろうと思えるよう促します。 	人間関係・社会性	6か月後	保育士 児童指導員	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人が「ありがとう」を自発的に言えた場合、その回数を週ごとに記録し、1週間で3回以上言えたら次のステップに進むことを考えます。
<p>① お子さんが【成長した姿】になっている！ と、イメージできるように💡</p>		<p>③ 支援を行う際の注意事項や 親御さんにご協力いただくこと</p>				
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲーム以外の新しい活動(アナログゲーム・制作等)に取り組むことで、さまざまな体験を増やし、自分の興味の幅を広げるとともに、ルールや役割に沿った言動・行動ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい活動の選択肢を提供 週に1回を基準に、●●くんの好みや興味に合わせて余暇活動の時間に、アナログゲームや制作活動を提案し、取り組みやすいよう(自己選択制など)サポートします。 ● 集団活動を含め、週に1回、アナログゲームや制作活動に、本人が興味を持っている友達や支援者が一緒に参加する場面を設け、協力して取り組む機会・経験を増やします。友達と活動をするときはルールを守る、役割分担を行うなどの流れを伝える。 ● ルールに柔軟に対応するスキル ルールの裏を突く行動に対して、本人の意見やアイデアを引き出し、ルールの改善案を考える機会を提供するとともに、「今日は〇〇のルールを優先してみよう」「この場面では△△を守るとどうなるかな?」など、具体的な場面での判断練習を都度行い、柔軟なルールの理解をサポートします。 ● ロールプレイによりルールの大切さを体感 ルールがない場合やルールを守らなかった場合の影響を本人が体験できるよう、支援者と一緒にロールプレイを行います。「もし〇〇のルールがなかったらどうなる?」といったシミュレーションを可能な限り場面の都度実施し、ルールがない場合の混乱や不公平感を体感する機会を設けます。 	言語・コミュニケーション	6か月後	保育士 児童指導員	<ul style="list-style-type: none"> ● 週に1回、10分以上、新しい活動に集中して取り組み、活動後に「楽しかったところ」や「またやりたいかどうか」を伝える練習をします。 ● 選んだルールを守る経験をし、ルールを守ったことでの体験を支援者に伝える。
本人支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分で状況に応じた行動(水分補給・衣服の着脱)を取れるように、リマインダーに反応し、学習前には集中しやすい環境を自ら整える習慣を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間設定とリマインド 室内に入ったら、5分以内に水筒のお茶を飲んだり、暑さを感じた際に上着を脱ぐなどの行動を促す時間をタイマー等により設定します。 ● 学習に集中しやすい環境を整えるサポート 学習を始める前に、3分以内に姿勢を整える、机に必要なものだけを並べ、不要なものは片付ける支援を行います。また、宿題の開始後10分が経過した時点で、集中力が切れていないか、環境に散らかりがいかに確認し、集中しやすい環境が維持されているか支援者がチェックします。 	健康生活	6か月後	保育士 児童指導員	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援者が「暑いと感じたら上着を脱ぐと運動がしやすくなるよ」とメリットも伝える。 ● 確認を受けた際に、自分が集中できているかどうかを振り返り、「今も集中できている」または「少し疲れてきた」と自分の状態を伝える。

※ お子さんがやってみて楽しいことや、チャレンジしたくなるような視点で考えていきます！



室内
ゲーム

社会体験活動
仕事体験

課外活動
社会見学

SST
LST

季節行事
誕生日会

制作活動
サイエンス

運動療育
スポーツ活動



食育・調理
おやつ作り

親子研修会
部外交流



“連携”について



私たちASTEPは、お子さんをあらゆる角度から見て、それぞれに合った療育や関わりを行っています。しかし、療育の時間には限りがあるため、ご家庭や学校との協力がとても大切です。

お子さんのご成長の一助となるためには、私たちだけでなく、ご家庭や学校、お子さんを取り巻く大人たちが、一緒に支えていくことが絶対的に必要だと考えています。

ご家庭の方針、学校との引継ぎや情報共有も大切にしていきながら、**統一感のある関わり**を目指しています。

お子さんの日々の様子についても、ぜひ教えてください。

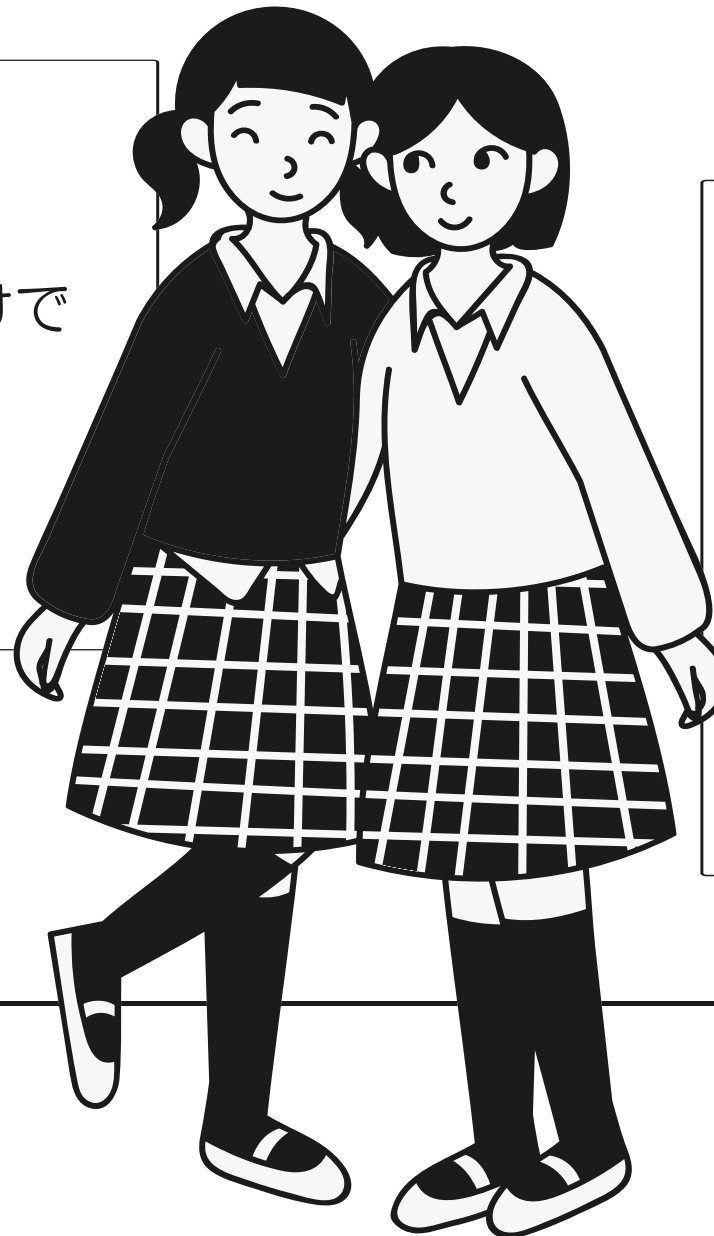
真心とぬくもりの ある支援員の育成



ASTEPが目指す支援員像

ASTEPは、**専門性の高い支援員**をそれぞれの施設に配置しています。
(臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士・作業療法士・保育士等)
また、**福祉業界の未来を担う若い人材**も多数在籍しています。
ただ、専門性が高い！だけでは本質的な療育はできないと考えています。

療育は【**人と人が深く関わり合う**】お仕事です。
お子さんと接する支援員には、専門知識や経験だけでなく、物事の本質を深く理解し、それを的確に伝える力が求められると考えています。



専門性を高めるための研修に加え、法人代表が主催する【**人間力の向上**】を目的とした研修を、2週間に1回のペースで行っています。この研修では、日々の業務を通じて実践とフィードバックを繰り返し行い、支援員の成長をサポートしています。ぜひ、人間味あふれる支援員たちの姿にもご注目ください◎



◎ さいごに

私たちの療育は、まだ発展途上にあります。未完成の部分や粗削りなところもあり、目の前には多くの課題が残っています。

しかし、これまでお子さんや保護者の皆さま、そして働く仲間たちと力を合わせ、1つ1つの課題を乗り越えてまいりました。

私たちは、課題があるからこそ新たな発想が生まれ、より良い支援の形を追求し、お子さんの成長に繋がれると信じています。


今では、私の心意気を感じ取ってくれるお子さんもあり、身に余る幸せを感じています。

療育の主人公はお子さんです。

楽しさや新しい発見を通じてお子さんの物語を豊かに彩り、ご成長に寄り添いながら、人と関わることの喜びや素晴らしさを感じていただけるよう、放課後という大切な時間を共に過ごしてまいります。

法人代表 水口 大督





本日は、見学にお越しいただき
誠にありがとうございました！

放課後等デイサービスASTEP

ASTEP長岡京

ASTEP LABO

ホームページ
QRコード

